

# ファイギュアスケート特別展を開催して

熊 博 毅

同じ時代では分からず、通り過ぎてから見えてくるものがある。歴史とはそういうものかもしれない。

しかし、スポーツの場合は、結果が明確に出るだけに、長い時間が経ってから振り返らなくても、同時代的に歴史上での位置づけが判断しやすい。

一三〇年近くに及ぶ関西大学の歴史のなかには、スポーツについても数多あまたの栄光の軌跡がある。昭和初期、多数のオリンピック選手を輩出した陸上部や、昭和三十年代から四十年代にかけて二度の全国優勝を果たした野球部などは、まさしくその時代、黄金色に光り輝いていた。そういう視点から見ると、高橋大輔選手、織田信成選手、町田樹選手が活躍した二〇一〇年の前後十年ほどは、関

西大学のファイギュアスケートも間違いなく黄金時代を迎えていたと言えるだろう。

「感動をありがとう！」

高橋大輔選手 織田信成選手」展

年史資料展示室では、これまでも高橋大輔さん、織田信成さんからメダルやトロフィーなどを借用して展示を行ってきた。

常設展示室の中でメダルなどを飾るとともに、平成二十二年（二〇一〇）、第二十一回冬季オリンピック（カナダ・バンクーバー大会）のあとには「感動をありがとう！高橋大輔選手 織田信成選手」と題する特別展を開催し



2010年の特別展

た。このときは両選手がオリンピックで着用したコスチュームと、高橋選手が獲得した日本男子フィギュア初の銅メダルを二日限定で展示した（ただし、コスチュームはメダル返却後もしばらく展示した）。

五月十六日（日）に開催された教育後援会総会と、そ

の前日の二日間で合計四五〇〇人の来館者を数えた。展示室の面積に比して、あまりにも多くの人が一ときに押し寄せたため、展示室からあふれ出た長蛇の列は、簡文館から遠く法文坂の中腹、総合図書館横あたりまで伸び、最長二時間半待ちの行列となった。

「世界を魅せたトップスケーター

高橋大輔選手 織田信成選手

町田 樹選手 栄光の軌跡」展

それから四年。再びめぐり来たオリンピッククイヤーの平成二十六年（二〇一四）に、年史編纂室ではフィギュアスケートに関する二度の特別展を開催した。一回目は高橋大輔さんと織田信成さん、町田 樹さん三人の栄光の足跡を振り返る「世界を魅せたトップスケーター 高橋大輔選手 織田信成選手 町田 樹選手 栄光の軌跡」展である。

会期は平成二十六年五月十七日（土）から八月四日（月）までの約二ヵ月半。期間中の五月十八日（日）には本学学生の父母や保護者約六〇〇〇人が参加する教育後

援会総会、六月十五日(日)と八月三日(日)、四日(月)には受験生を対象とするオープンキャンパスが開催されるため、数多くの来館者が見込まれた。

平成二十二年の特別展が、狭い年史資料展示室を会場としたため、来館者を収容しきれなかった反省に基づき、年史資料展示室の二階にある博物館常設展示室内の大型ケース二台を使用して展示することにした。「栄光の軌跡」展で配列した品々は次のとおりである。

#### 【高橋大輔選手】

- ① トリノオリンピック(二〇〇六年) 八位入賞 賞状
- ② ソチオリンピック(二〇一四年) ショートプログラム(S.P)・フリープログラム(F.P)で着用したコスチューム二着
- ③ 二〇〇五―二〇〇六フィギュアスケートグランプリファイナル(東京) 銅メダル
- ④ Japan International Challenge 2005 優勝トロフィー
- ⑤ 第七十四回全日本フィギュアスケート選手権大会(二〇〇五年) 男子シングル総合優勝トロフィー



栄光の軌跡展の様子

⑥ 第七十四回全日本フィギュアスケート選手権大会

(二〇〇五年) 男子シングル金メダル

⑦ 第七十五回全日本フィギュアスケート選手権大会

(二〇〇六年) 男子シングル総合優勝カップ

⑧ 二〇〇七―二〇〇八 ISUフィギュアスケートグ

ランプリファイナル 男子シングル銀メダル

⑨ 「応援ありがとうございます!!」色紙(二〇一四年三月十三日)

#### 【織田信成選手】

① 二〇一三年NHK杯 FPCosチューム一点

② 二〇〇五年NHK杯 男子シングル優勝トロフィー

③ 二〇〇五年NHK杯 男子シングル金メダル

④ 第七十四回全日本フィギュアスケート選手権大会

男子シングル総合二位トロフィー

#### 【町田 樹選手】

① ソチオリンピック(二〇一四年) FPCosチューム

(ソチ個人戦、ソチ団体戦・世界選手権着用)二点

② スケート靴

③ 二〇一四年世界選手権大会 銀メダル(S・P・金、FP・銀、総合・銀)

④ 「応援ありがとうございます!!」色紙(二〇一四年三月十三日)

#### 【高橋・織田・町田三選手】

①バンクーバーオリンピック選手用ジャージ(高橋・

織田選手サイン入り)

②バンクーバーオリンピック(高橋選手・織田選手出

場)応援メッセージ書き日章旗

③ソチオリンピック(高橋・町田選手出場)応援メッ

セージ書き書き日章旗

④高橋・織田・町田選手寄せ書き色紙(二〇一四年四

月二十一日)

⑤三選手が活躍している写真

⑥「栄光の軌跡」展解説パネル

特別展は、開始二日目の五月十八日(日)に最初の大



館外へあふれ出た行列

きなピークを迎えた。教育後援会総会に出席した学生の父母や保護者の方たちが、特に午後、大挙して来館したからである。この日一日での入館者数は二三三二人であったが、これはある程度予想した数字であった。

四年前の反省から、展示場所を変更して、ゆったりとしたスペースで見ることができるようになったため、館外に人があふれ出すことはないだろうと思っていたが、多人数が短時間に集中する現象は変わらず、前回ほどはなかったものの、やはり入場待ちの列が簡文館の外まで伸びた。これは予想外のできごとであった。

その後、入館者数は順調に伸び、スタートから一ヵ月近く経った六月十五日(日)、オープンキャンパス当日に累計入館者数が五〇〇〇人を突破した(この日の入館者数は七二五人)。両親とともに関西大学を訪れた女子高校生が記念すべき入館者であった。年史編纂室では記念入館者証と記念品を贈呈して感謝の意を表した。同じく一人目の記念入館者も、オープンキャンパスを開催している八月三日(日)に達成した。五〇〇〇人目同様、記念証と記念品を贈呈した。



入館5000人目の記念証贈呈

また、オープンキャンパスの関係では、会期終了後の八月二十三日（土）に開催された高槻ミュージアのオープンキャンパスでも、千里山で行った展示のダイジェスト版の出張展示を行った。オープンキャンパスで展示を行うことは、高校生やその父母などに対し、関西大学のPRができると考え、積極的に参加したのである。

関西大学博物館・年史資料展示室は通常、月曜から土曜の十時から十六時までが開館時間となっている。大学の博物館ということから、授業が行われない日曜や祝日は休館となるのが一般の博物館や美術館と異なる大学博物館の特殊性である。

ただ、学内行事との関係で日曜も開館することはある。「栄光の軌跡」展の時も五月十八日（教育後援会総会）、六月十五日、八月三日（ともにオープンキャンパス）の三日間は、当初から日曜開館を予定していた。

しかし、五月二十五日（日）に高橋大輔さんや町田樹さんを含むプロスケータによるイベントが大阪府立臨海スポーツセンターで開催されることから、当日の日曜特別開館を望む声が年史編纂室や博物館へ数多く寄せられた。開館にあたっては出勤スタッフの割り当てなど、いくつかクリアしなければならないことがあり、それらの問題を処理した上で開館することにした。

当日は午後からスポーツセンターでイベントが開催されるため、午前十時の開館と同時にたくさんの方々が詰めかけた。明らかに遠来であることが分かるキャリアー

バック持参の人も多数見受けられた。この日一日の入館者は二四八人。前日の土曜に来た人も一六八人いたことから、このイベントがらみで大阪へ来た人たちが関西大学へ訪れたのは両日で四百人余りと考えられた。

結局、二ヵ月半の会期中、全国から数多くのファンが訪れ、合計一万一九九二人の来館者数を記録することになった。単独の企画展としては過去最高の数字であった。

### 「勇気と感動をありがとう！ 高橋大輔さん」展

夏の特別展が終わり、夏休みが明け、キャンパスで学生たちの日常生活が繰り広げられるようになってしばらくした平成二十六年十月十四日（火）、衝撃的なニュースが日本国中を駆けめぐった。高橋大輔さんの引退である。突然の発表に対してファンからは惜別やねぎらいの声が相次いだ。

これに対して年史編纂室では急遽、高橋大輔さんにスポットを当てた「勇気と感動をありがとう！ 高橋大輔さん」展の開催を決定し、高橋大輔さんに特別展の開催を打診した。快諾を得ることができた特別展で展示したの



高橋大輔展の展示状況



は次のような品であった。バンクーバーオリンピックの銅メダルと二〇一〇年世界選手権大会の金メダル、これまでの大会で着用したコスチューム六着などは、ファン必見のお宝として特筆すべきものとなった。

- ① バンクーバーオリンピック（二〇一〇年）の銅メダル（布製の収納ケースやメダルを包むスカーフを含む）
- ② 二〇一〇年世界選手権大会 金メダル（SP・金、FP・金、総合・金）
- ③ バンクーバーオリンピック、ソチオリンピック（二〇一四年）で着用したものを含むコスチューム六着
- ④ スケート靴と布製ブレードカバー
- ⑤ ソチオリンピックの選手IDカード
- ⑥ トリノオリンピック（二〇〇六年） 八位入賞 賞状
- ⑦ Japan International Challenge 2005 優勝トロフィー
- ⑧ 二〇〇五―二〇〇六フィギュアスケートグランプリファイナル（東京） 銅メダル
- ⑨ 第七十四回全日本フィギュアスケート選手権大会（二〇〇五年） 男子シングル総合優勝トロフィー

- ⑩ 第七十四回全日本フィギュアスケート選手権大会（二〇〇五年） 男子シングル金メダル
- ⑪ 第七十五回全日本フィギュアスケート選手権大会（二〇〇六年） 男子シングル総合優勝カップ
- ⑫ 二〇〇六年NHK杯 男子シングル金メダル
- ⑬ 二〇〇七年NHK杯 男子シングル金メダル
- ⑭ 二〇〇七―二〇〇八 ISUフィギュアスケートグランプリファイナル 男子シングル銀メダル
- ⑮ 「全力を出しきる!! 目指すは金!!」色紙（二〇一〇年一月十二日）
- ⑯ 「応援ありがとうございました!!」色紙（二〇一四年三月十三日）
- ⑰ 高橋・織田・町田選手寄せ書き色紙（二〇一四年四月二十一日）
- ⑱ 高橋さんが活躍している写真

右の展示品のほかに、高橋さんの許可を得たうえで、高橋さんが二〇一三年のNHK杯で優勝したとき、金メダルを掲げている姿を等身大のパネルとして作成した。





高橋大輔さんの等身大パネル

これを簡文館一階にある年史資料展示室の入口付近に「記念撮影コーナー」として設置したところ、来館者には好評で、パネルとともに記念撮影をしていく姿が多数見かけられた。

さらに、展示ケースの前に設置されている円形の休憩用ソファ付近に来館者が自由に書き込める感想ノートも置いたが、ファンの熱烈な言葉が綴られ、ノートの数は六冊に達した。

夏の特別展同様、会期中に高橋さんが出演するアイスショーが平成二十七年一月十日（土）から十二日（日）

の三日にわたって開催されることが決まっております、これに対しても前回と同じように日曜特別開館を望む声が多数寄せられたため、スタッフの勤務調整をいたうえて対応した。

「高橋大輔」展は一月十七日に終了したが、会期中の入館者は四三七六人を数えた。そして四月からの総入館者数も一万九五九一人となり、年史資料展示室が開館して初めて二万人の大台にあと一歩という新記録を樹立したのである。

熊 博毅（くま ひろき・学術情報事務局次長）